

第40回司法制度研究集会

今日の冤罪と司法制度改革

——冤罪は何故生れるのか？——



↑熱心に聞き入る参加者



- ◆司法制度研究集会、盛況に開催される！
- ◆白熱した議論、会場を飛び交う！
- ◆志布志事件、取材現場からの報告に大きな驚き！
- ◆裁判員制度は！？ 取り調べの可視化は！？



↑開会の挨拶 中田理事長



←コメンテーターの先生方

左から小田中聰樹先生、秋山賢三先生、成澤宗男先生

去る3月8日、第40回司法制度研究集会が開催されました。

今回の司研集会は、2部構成で行いました。1部では、冤罪の現場からのなまなましい報告を受けました。昨日、警部補に有罪判決が下されましたが、志布志事件については、全くのでっちあげであったことを明らかにし、多くの村民の人権や平穏な日常生活を崩壊させて行く過程をつぶさに取材した朝日新聞の梶山記者から報告を受けました。同記者からは、この事件の深刻さと、捜査に対する第三者機関による調査の必要性が強調されました。鳥海弁護士からは、痴漢冤罪事件については、侵したとされる罪と長期拘留の不利益の不均衡が大きいということ、冤罪を証明する困難さに、この種の冤罪事件が生み出されている構造的原因があること、これに対し積極的に是正の発言をしていかなければならない。と報告がされました。



梶山 天氏 鳥海 準先生

第2部は、1部での冤罪の現場からの悲痛な叫びに応えるために、二つの問題提起が準備されました。一つは取調べの可視化の問題、そして裁判員制度です。

可視化問題については、大阪の笠松健一弁護士から日弁連、大阪弁護士会を中心とした準備状況と、今後の取り組みについての報告を受け、三人のパネラーからは、一步前進、可視化の実現は当然という前提のうえで、被告人の人権という視野からこの取り組みを理論づけるべきとの指摘がありました。会場からは、全過程の可視化の実現がともなわない立法化は、極めて危険な側面を持っている。可視化問題に運動を収束させることは、本質を

見誤る危険ある。などの厳しい指摘もありました。また、もうひとつの、裁判員制度で冤罪は防げるか、というテーマでは、最近「冤罪弁護士」という著書をだされた、今村 核弁護士から、この制度設計者自ら、「精密司法」に替えて「核心司法」になるんだと言っている、「核心司法」とは、枝葉を切り落とし、杜撰司法にほかならない。国民の司法参加という錦の御旗のもとに、裁判員に過大な負担をさせてはいけないということで簡略・迅速化が推し進められてしまうのではないかと、被告人の権利、弁護権がないがしろにされる契機が極めて大きいとの指摘がありました。今村報告をうけ、パネラー 笠松健一先生 今村 核先生からも会場からも、各方面からの発言が相次ぎました。



笠松健一先生 今村 核先生

午後からという短時間の設定のなかで、佐々木光明（神戸学院大学）と伊藤和子（弁護士）両氏の適切なコーディネートのおかげもあって、現在の司法がかかえているさまざまな問題点をえぐった、時宜に合った研究集会となりました。

今回の司研集会の詳細な報告は、「法と民主主義」4月号に掲載予定です。請うご期待。

集会後に開催された懇親会でも、討論の続きやら、憤懣やら、感動やら、旧交をあたためるなかで、再度、梶山氏からの「ぜひ、第三者機関をたちあげ、志布志事件の真相究明のために司法関係者の立ち上がりを臨みます。そうでなければ、本日鹿児島から駆けつけた意味が半減します」という訴えがありました。

「9条世界会議」の成功に向けて

「9条世界会議」を成功させる法律家の会 結成される

来る5月4日～6日にわたり千葉の幕張メッセ・仙台・大阪・広島等で開催される「9条世界会議」の成功のために、〈「9条世界会議」を成功させる法律家の会〉が結成されました。当協会も、この「法律家の会」に参加しております。

「9条世界会議」への積極的なご参加と、賛同募金へのご協力、ならびに「9条頑張れ！市民と弁護士がつどう第9コンサート」へのご参加ならびにこちらにも経済的ご支援をお願いする次第です。

(詳細は、別紙のお願い・同封のリーフ等をご参照下さい)

2007年冬季

カンパ・賛助会費ご協力追加報告

前のご報告以降、下記の方々からご厚志をお寄せいただきました。お名前を記して御礼とさせていただきます。

(50音順・敬称略)

井之脇寿一／四位 直毅／清水 善朗／丹波 孝

馬杉 栄一

岡山合同法律事務所／渋谷共同法律事務所

千葉第一法律事務所／東京合同法律事務所

■予告

第47回定時総会 開催日決定

第47回定時総会を下記の日程で開催いたします。
第4回「相磯まつ江記念 法と民主主義賞」授賞式も同日行います。

皆さまのご出席をお待ちしております。

- ・開催予定日：7月12日(土) 10時～17時
- ・会場：東京・中野SUNPLAZA・8階

※近々にご案内をお送りします。

■これからの「法民」企画と学習会

- ◆4月号(No.427)／特集●今日の冤罪と司法制度改革—冤罪は何故生まれるのか？
- ◆5月号(No.428)／特集●平和を創る市民と法律家—いま「非武装中立」を問い直す(下記のご案内を御参照ください。)
- ◆6月号(No.429)／特集●サミットと「テロ」対策(仮)
- ◆7月号(No.430)／特集●「政治改革」のやり直しを展望する—選挙制度と政治資金をめぐる

※日民協文芸 作品募集中！！ 新作・未発表作品など、是非お寄せ下さい！

■公開シンポジウムのご案内

●月刊「法と民主主義」特集企画・公開シンポジウム●

いま「非武装中立」を問い直す

—平和を創る市民と法律家

日時■ 4月5日(土) 午後1時30分～5時

会場■ アカデミー文京・学習室

(文京シビックホール 地下1階)

- (1) 不戦条約から憲法9条へ 河上暁弘(明星大学講師)
- (2) コスタリカの非武装中立 田部知江子(弁護士)
- (3) 平和を創り出す運動を 上原公子(元国立市長)

・参加者による自由闊達な意見交換

◆コーディネーター・前田 朗(東京造形大学教授)

※集会の記録を「法と民主主義」5月号に掲載します。

※参加ご希望の方は、4月2日(水)までに本部事務局まで御連絡ください。

!近刊書のご紹介!

■道遠くとも——弁護士相磯まつ江



川口和正 編著
08年3月発刊
コモンズ

■同盟変革——日本軍事体制の近未来



松尾高志 著
08年3月発刊
日本評論社

■軍隊のない国家

——行って、見てきた27ヵ国

前田 朗 著
08年4月中旬発刊
日本評論社